斉藤 淳

〈「J Prep 斉藤塾」代表〉

さいとうじゅん／1969年生まれ。上智大学卒業後、イェール大学大学院政治学研究科博士課程修了(政治学博士)。衆議院議員（民主党）、イェール大学助教授を経て、2012年に米国より帰国、英語塾「J Prep 斉藤塾」を開く。

「1年間で映画を理解できるレベルに達する人もいます」

イェール大学の学生が、短期間で外国語をマスターできるようになる秘訣とは。

私は帰国子女ではなく、山形県酒田市で生まれ育った生粋の日本人です。中学2年生のとき、米国から大学生が叔父の家にホームステイにやってきたことが、英語に興味を持ったきっかけでした。

私は昔から文学が好きだったので、高校生のときは、ひたすら洋書を読んでいました。たとえば、ヘミングウェイの『老人と海』は、英文自体はそれほど難しくありません。また、映画の原作本もよく読みましたね。映画を観た後に原作を読むと、日本語訳がなくても、簡単に英文を読み進めることができます。

私が洋書を読むときは、最初の10%のページに出てきたわからない単語はすべて辞書で調べ、単語帳にして覚えます。次の10%は重要そうな単語だけを調べ、残りは速読です。ポイントとなる単語は最初の20%に集中的に出てくるので、このやりかたでどんどん読めます。大学生のときは、山手線に乗り、1駅の間に3ページ読む、というノルマを自分に課していました。最長で連続3周乗っていたこともありましたね。

私が大学院留学したイェール大学は、外国語教育にも定評があり、1年間で「映画の7割」が理解できる外国語のレベルになる学生もいて驚きました。語学の授業は、母語（英語）を介さないのがイェール流。授業外でも外国語漬けの環境が用意されています。たとえば、カフェテリアではランチタイムに言語別の「ランゲージテーブル」があり、中国語テーブルに行けば中国語を話せる環境が整っているのです。

まったく同じ環境を日本で実現するのは難しいと思いますが、イェール大学でも重視されている、動画を使った勉強法はお勧めです。映画やドラマ、ニュース、ドキュメンタリーを使って、簡単に英語漬けの時間を増やすことができます。その際に字幕があるものは、英語の字幕は参考にしても構いませんが、日本語の字幕は見ないようにすること。どうしてもわからない箇所のみ、文法書や辞書で調べるようにしましょう。そして、同じ作品を何十回も繰り返し観て、気に入ったセリフがあれば口に出してみましょう。

このように生きた言葉をそのままインプットするというやりかたは、子供が母語を覚えるときに普通にやっている手段です。映像を使って、文法や単語を「状況」と結び付けると、ニュアンスやイメージも含めてまるごとインプットができるので、効率的です。今の時代は、YouTubeなどインターネット上にも、英語学習に使える無料の動画が無数にあります。こうしたツールを最大限に活用して、最短ルートで英語を習得していくとよいでしょう。（談）

斉藤さんの サラッと言ってのけたい英語フレーズ

1. *“No pain, no gain.”*　苦労せずして、得るものなし。
2. *“In the history of the world, nobody has ever washed a rented car.”*
   人類史上、レンタカーを洗車した者は誰もいない。
3. *“Those who foolishly sought power by riding the back of the tiger ended up inside.”*
   愚かにも虎の威を借り権力の座を目指したものは、結局は虎の胃袋の中に収まってしまったのです。

1.「“pain”、“gain”が韻を踏んでいることを意識し、二重母音のai[eɪ]と語尾の“n”をきちんと発音しましょう」 2. 経済学者であり、米財務長官を務めたローレンス・サマーズのセリフ。「私的所有権の重要性を冗談めかして説いたフレーズです」 3. ジョン・F・ケネディの大統領就任演説より。「英語には珍しく主語にかかる修飾語が長い文です。ネット上の動画などを使って、ケネディが演説した通りのリズムで、適切な間を取って読むようにしましょう」

斉藤さんの近著

『世界の非ネイティブエリートがやっている英語勉強法』
斉藤 淳　KADOKAWA